

平成 30 年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え 地域になくてはならないこども園を目指す

2. 教育・保育方針

発達を促せるように、一人ひとりを大切にす
 ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する
 ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する
 ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する
 ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、活かしている。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	全体的な計画、教育課程をもとに、年間指導計画、月間指導計画、週案等を作成し、さらに0・1・2歳児においては個別に作成している。保育教諭自身の日々の保育、子どもとのかかわりを振り返ると共に、子どもの育ちや成長をしっかり捉え、子どもの成長、興味関心に基づいて作成している。人的環境や物的環境の視点から保育を考え、見直していく必要がある。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返っている。子どもの興味関心を十分満たしていけるような環境構成や、子どもとのかかわり方の工夫を日々考え、保育の充実に努めている。	A
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや職員会議で、保育の中でのエピソードやクラスの様子などを報告し、共有することで子どもへの理解を深めたり、各クラスの保育内容を共有している。また、支援の必要な子どもや保護者についても情報を共有し、全職員で一貫した支援ができるよう努めている。	A
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	成長過程にあり、日々様々なことを学んでいる子ども一人ひとりの個性や個人差を理解し、受容、共感しながら向き合っている。そして、その子らしさを大いに伸ばせるよう努めている。	A
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子ども同士でのあそびの中で、共通の目的を持って、相談したり工夫をしたりしてあそびを広げている。子ども達の発想や工夫を十分満たしていけるような環境整備や保育教諭のかかわり方をさらに充実させていく必要がある。	B

<p>規則正しい生活習慣の定着、手洗い・うがいの定着等に向けての指導を行う。</p>	<p>看護師による保健指導を通して、身体のしくみや生活習慣について学んでいる。さらに、看護師による手洗い・うがい・咳エチケットの指導や歯科衛生士による歯磨き指導を行い、自分の体と向き合い、大切にしていけるような機会を設けている。</p>	<p>A</p>
<p>季節の草花を園庭に植える。 生き物を飼育する。 各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。</p>	<p>園庭には、草花や木々があり、自然の中で季節の移り変わりを感じたり、草花や虫などに触れるとともに、あそびに取り入れている。また、うさぎや昆虫のお世話を通して、思いやりの心や生き物を大切にすることを育んでいる。子どもの興味関心や発達に合ったおもちゃや絵本を取り入れ、さらなる充実に向けていく必要がある。</p>	<p>B</p>
<p>行事は、全体的な計画、園の理念・方針を踏まえ計画し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。</p>	<p>行事指導案を作成し、ねらいや内容について明確に示し、指導案に基づいて行っている。評価、反省、改善点等は端的にまとめ、次年度へスムーズに繋がるよう努めている。</p>	<p>B</p>
<p>衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。</p>	<p>職員、園児の予防接種歴や感染症の罹患歴を把握するとともに、看護師による毎日のドアノブの消毒、おもちゃの洗濯や消毒、保育室の消毒などを定期的に行い、感染症の予防に努めている。さらに、職員を対象とした「嘔吐処理対応訓練」等の実務研修を行うことにより、集団感染の防止に努めている。</p>	<p>A</p>
<p>特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。 家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもに対しては、家庭や関係機関との連携を図りながら、個別の支援計画と指導計画を作成し、保育にあたっている。個々の発達や身体、障害の状況を十分理解し、職員間で情報を共有し、他児とのかかわりの中で成長していけるよう、努めている。</p>	<p>A</p>
<p>小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。</p>	<p>近隣の幼保小との会議に参加し、積極的に取り組んでいる。小学校の生徒を園に招いて交流を持ったり、5歳児は小学校を訪問し、校内見学や授業見学をするなど、小学校へのスムーズな接続に努めている。今後は、職員同士の交流や会合の機会を設け、連携を図っていく必要がある。</p>	<p>B</p>
<p>職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。</p>	<p>毎月の園内点検や遊具の点検、様々な場合を想定した避難訓練等を通して、非常時に対する意識を持てるようにしている。防災・防犯マニュアルにおいて、災害時や非常時についての避難方法や安全管理について周知している。</p>	<p>A</p>
<p>園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。</p>	<p>行事の様子やクラスのエピソードなどを園だよりやホームページ等で分かりやすく伝え、教育・保育理念の周知に努めている。また、送迎時には子どもの様子を保護者に伝えるなど、喜び合う機会となっている。園外保育の際には、保育参加の保護者を募り、保護者とともに子どもの育ちを見守っていけるような機会を設けている。</p>	<p>A</p>
<p>地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。</p>	<p>週に2回子育て支援「たんぼぼのへや」を、週に1回園庭開放を行っている。様々な活動(あそび)、保護者同士の交流、育児相談、また母親のリフレッシュなど、気軽に集う場所を提供している。子育てについての情報や重要性なども随時伝えている。地域の方を対象とした一時預かり事業も実施しているが、さらなる充実が求められる。</p>	<p>B</p>
<p>教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。</p>	<p>全職員での園内研修を充実させるとともに、園外研修にも積極的に参加している。園内研修では、職員自らが当事者意識を持って参加し、他の職員と子どもの育ちについて語り合い、自らの保育を省察する機会となっている。常に学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。</p>	<p>A</p>
<p>職員の心得を熟読し、職員としての質の向上を図る。</p>	<p>保育者のモデルとなるよう、一人ひとりが十分自覚を持ち、子ども、保護者、職員とかわるようになっている。当事者意識を持ち、主体的に職務を全うするように努めている。1日の初めである挨拶は、気持ちの良い1日となるよう、きちんと目を見て、丁寧に行うよう、徹底している。</p>	<p>A</p>

4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
おりーぶの森の全体的な計画、教育課程、年間指導計画をもとに子どものよりよい育ちを目指し保育を行った。また、園内研修では、おりーぶの森の教育、保育方針を一人ひとりが改めて見つめ直し、様々な意見を出し合うことで、理解を深め共通理解を図った。自身の保育を振り返ると共に、子どもの育ちのために保育教諭が大切にすべきことを、全職員が再認識することができた。今後は、学び合ったことを実践に活かすとともに、さらなる改善が図られるよう、努めていく必要がある。	B

「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育日誌の有効活用	保育日誌を書くことで、日々保育を省察し、次の保育の環境構成や展開に活かしていく。日々の具体的な教育、保育内容、活動、また、保育教諭の気づきなどを共有する機会を持ち、保育教諭同士で切磋琢磨し合いながら、自らのスキルの向上に努めていく。
各種マニュアルの整備と実践	一貫した保育が必要と思われる育児(おむつ交換・手洗い・着替え等)手順のマニュアルをもとに、丁寧なかかわりを実践していく。デイリープログラムやクラスのルール、早番・遅番等の仕事内容について内容を整理し、周知していく。
室内、戸外のおそびの充実のための環境づくり	年間指導計画に則ったおもちゃの種類や数量を用意していく。さらに、保育教諭は常に子どもの興味関心を十分満たすおそびについて考え、そのための環境づくりを工夫していく。
延長保育・土曜保育の充実	異年齢児がかかわって遊ぶ朝と夕の延長保育、土曜保育について、子ども達が主体となって遊び込めるような環境を整えていく。安全に遊べる環境の整備やおもちゃの種類や数量について考え、質の向上を図る。